



# 第94期 中間報告書

平成29年4月1日 ▶ 平成29年9月30日

## Contents

- P1 株主の皆様へ
- P3 セグメント別概況 (連結)
- P5 トピックス
- P7 連結財務諸表
- P9 会社情報・株式情報

# 株主の皆様へ To Our Shareholders

平素は格別のご高配を賜りありがたく厚く御礼申しあげます。

第94期第2四半期累計期間（2017年4月1日から2017年9月30日まで）における当社グループの業績について概要をご報告申しあげます。

当第2四半期累計期間の当社グループを取り巻く経営環境は、海外においては、米国は個人消費や設備投資が増加し、景気は緩やかな拡大基調で推移いたしました。中国は輸出の持直し等によりおおむね景気は回復基調で推移し、東南アジア諸国は輸出や内需を中心に堅調さを維持しました。

国内においては、民間設備投資は省人化投資のニーズの高まり等により回復の兆しがみられ、公共投資も増加傾向で推移するなど、景気は総じて緩やかな回復が続きました。

このような景況の下で当社グループといたしましては、自動化や省力化に向けて好調な産業用ロボットや半導体業界など、今後も成長が見込まれる分野での受注拡大に注力するとともに、さらなるシェアアップに向けた新商品の開発や製品の高付加価値化を進め、事業拡大を図ってまいりました。また、当社の生産設備等においても自動化を推進し、生産性の向上に取り組んでまいりました。

さらに、新分野への挑戦として、医療分野への参入に向けた開発を推し進めてまいりました。特に、ES/iPS細胞の培養過程で不要な細胞を自動でレーザー除去する装置「セルクオリア」については、実機を展示会に出展するなど販売開始に向けた準備を進めました。

その結果、企業集団の業績（連結業績）につきましては、受注高は459億67百万円（前年同期比6.9%減）、売上高は388億45百万円（同12.4%増）となりました。損益面につきましては、経常利益は前年同期比6億89百万円増加し13億5百万円となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比6億63百万円増加し10億9百万円となりました。

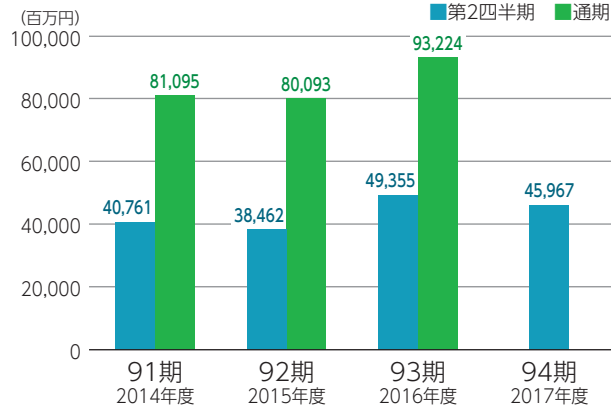
配当は継続的かつ安定的に実施していくことを基本としておりますが、当社グループの事業構造により、公共・社会インフラ等の設備関連機器をはじめとして、全体的に売上が下半期に集中する傾向であること及び当社の財務体質を勘案し、中間配当の実施を見送ることいたしました。株主の皆様には誠に申し訳ない次第でございますが、何卒ご了承を賜りますようお願い申し上げます。

今後の当社グループを取り巻く経営環境は、海外においては、米国の景気は内需を中心とした緩やかな拡大基調が持続するとみられます。中国は経済政策による景気の減速懸念があるものの、東南アジア諸国は先進国向けの輸出や内需を中心として堅調に推移するとみられます。

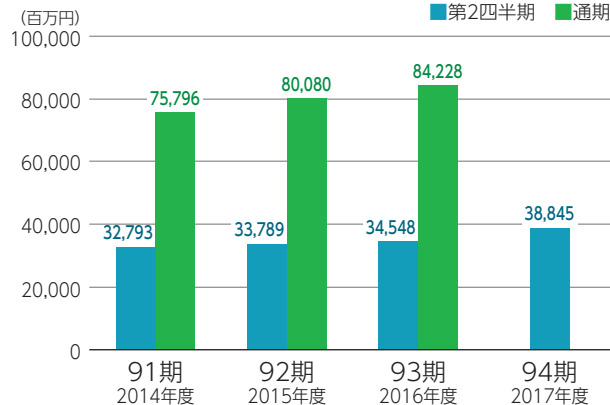
国内においては、民間設備投資の需要は引き続き底堅く、公共投資は堅調さを維持することなどにより、景気は緩やかに回復すると予測されます。

しかしながら、地政学的リスク等の不確定要素があり、先行き不透明な状況が続くとみられます。

## 受注高



## 売上高



このような情勢の中で当社グループといたしましては、引き続き好調な業界における販売活動を重点的に行うことにより受注を拡大させ、さらなるシェアアップを図ってまいります。同時に、製品の高付加価値化や新製品の開発により、新規顧客の獲得や新たな事業領域の展開を一層推進してまいります。また、生産の自動化や作業効率アップ、生産コストの低減を推し進め、利益率の向上に継続して取り組むとともに、医療関連などの新分野に挑戦してまいります。

当社グループは、創業100年を迎えた本年度を最終年度とする中期経営計画「BRIDGE 100」の下、「中核事業の拡大」「グローバル事業の拡大」「新分野への挑戦」「グループ経営基盤整備」の4つの基本方針に則って、長い歴史の中で培ってきた“Motion&Energy Control”技術と顧客基盤を活かし、変化する時代に対応した開発型企業として新たな成長の実現を目指しており、目標の達成に向けて邁進しております。

これからも、株主の皆様、顧客の皆様から評価していただけるよう、さらに企業価値を高め、成長し続ける企業グループとなるべく、グループを挙げて努力を重ねてまいります所存でございます。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



取締役会長

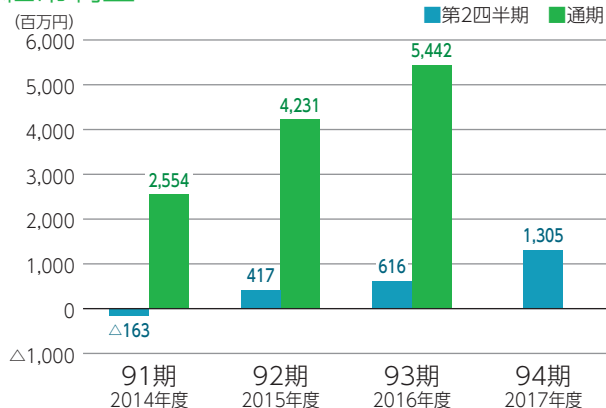
武藤 昌三

取締役社長

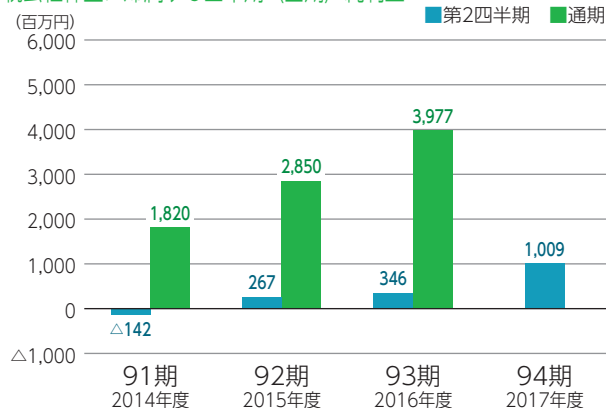
古谷 浩三

平成29年11月

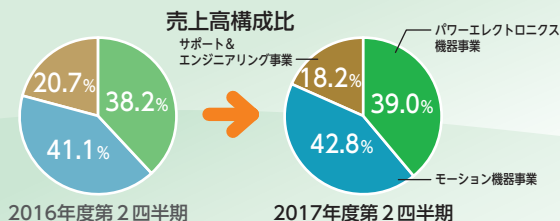
## 経常利益



## 親会社株主に帰属する四半期 (当期) 純利益



# セグメント別概況(連結) Overview by Segment



当社グループの事業セグメントは、「パワーエレクトロニクス機器事業」「モーション機器事業」「サポート&エンジニアリング事業」の3つで構成しております。

セグメント別の当第2四半期売上高構成比は、左グラフの通りパワーエレクトロニクス機器事業が前年同期比0.8%増の39.0%、モーション機器事業が前年同期比1.7%増の42.8%、サポート&エンジニアリング事業が前年同期比2.5%減の18.2%となりました。

当上半期におけるセグメント別の概況は以下の通りです。

## パワーエレクトロニクス機器事業

**受注高** 175億 33百万円  
(前年同期比 6.3%減)

**売上高** 151億 47百万円  
(前年同期比 14.8%増)

受注高は、海外で大型案件を獲得した振動機・パーツフィード部門や、半導体業界の好調を受けてクリーン搬送機器部門が増加したものの、社会インフラシステム部門が前年度の高い水準からは減少となったことなどから、前年同期に比べ11億77百万円減少いたしました。

売上高は、振動機・パーツフィード部門やクリーン搬送機器部門が増加したことなどから、前年同期に比べ19億50百万円増加いたしました。



### クリーン搬送機器部門

精密なデバイス加工精度と高度なクリーン搬送技術が求められる製造工程において、世界のトップブランドとして信頼を集めています。大気搬送技術はもちろん、独自開発のN2パージ機構を持つロードポートや真空搬送技術で、より微細化と歩留まり向上の要求が高まる半導体メーカーの期待に応えています。



### 振動機・パーツフィード部門

振動機器のトップメーカーとして、食品・化学・リサイクルなど、あらゆる業界へ振動コンベヤ等を提供。また、携帯電話やスマートフォンに使われる微小部品からネジなどの大形部品まで様々な生産・加工ラインにおける部品供給・整列搬送システムを提供しています。



### 社会インフラシステム部門

上下水道の監視制御システム、汚泥焼却施設用電気設備、さらには再生可能エネルギー発電装置を核とした小規模スマートグリッドシステムなどを提供。安心と快適、そして省エネルギーを実現しながら信頼できる社会インフラを支えています。



### 自動車用試験装置部門

スピーディーな開発や安全性が求められる自動車産業において、衝突試験装置等の各種実験装置・検証装置を数多く提供。ハイブリッド自動車や、時代の要求に応える最先端自動車の開発に貢献しています。



### 産業インフラシステム部門

高効率コージェネレーションシステムや産業・業務用エンジン発電機は、安定した電力供給とともに省コスト・省エネルギーを実現。さらに、液化天然ガスの汲み上げに使われるモータ、駐機中の航空機に電源供給する空港用電源車、様々な現場ニーズに応えるリフマグ®、最先端の金属材料開発を実現する真空溶解炉などを提供しています。

## モーション機器事業

受注高 **191億 6百万円**  
(前年同期比 6.0%減)

売上高 **166億 16百万円**  
(前年同期比 17.0%増)

受注高は、産業用ロボット等のFA分野における需要の高まりを受けてモーションコントロールシステム部門が増加したものの、プリンタシステム部門がカードゲーム向けを中心に低調であったことや、航空宇宙システム部門が好調ながらも前年度より減少したことなどから、前年同期に比べ12億13百万円減少いたしました。

売上高は、モーションコントロールシステム部門や、前年度の受注が高水準であった航空宇宙システム部門が増加したことなどから、前年同期に比べ24億19百万円増加いたしました。



### 航空宇宙システム部門

我が国唯一の航空機用電源システムメーカーとして、発電機をはじめとした航空機用電装品等を提供。また、ヘリコプター用レスキューホイストなど人命救助に役立つ製品からロケット用制御システムなど宇宙分野で活躍する製品まで幅広く提供しています。



### モーションコントロールシステム部門

産業用電磁クラッチ・ブレーキからOA機器用マイクロ電磁クラッチ、自動車用電磁クラッチ、鉄道用ブレーキ、建設機械用コントローラ、産業用サーボアクチュエータなど、豊富なバリエーションを提供。モーション精密機器の心臓部とも呼べるモーションシステム製品を幅広く提供しています。



### 大型搬送システム部門

巨大な航空機の牽引をはじめ、乗客の乗り降り、貨物の搬入搬出を担う空港地上支援車両など、空港運営に不可欠な重荷物搬送を行う特殊車両を提供。さらに、港湾、倉庫、造船所における超重荷物搬送で活躍する産業用特殊車両など、用途に特化した各種車両を提供しています。



### プリンタシステム部門

アミューズメント施設や街中で見られるシールプリンタやカードゲーム機、各種プリントサービスに使われている昇華型プリンタを提供。世界最速・最高解像度を実現し、世界初の両面プリンタやツインヘッド方式によるホログラムプリンタを開発するなど、プリント&ビジュアル分野の可能性を広げています。

## サポート&エンジニアリング事業

受注高 **93億 27百万円**  
(前年同期比 9.7%減)

売上高 **70億 81百万円**  
(前年同期比 1.0%減)

受注高は、シンフォニアエンジニアリングやS&Sエンジニアリングで設備工事が減少したことなどにより、前年同期に比べ9億97百万円減少いたしました。

売上高は、ほぼ前年と同水準ではありましたが、S&Sエンジニアリングで減少したことなどにより、全体としては前年同期に比べ73百万円減少いたしました。



### シンフォニアエンジニアリング

当社製品の保守・サービス業務並びに公共、民間の電気工事、管工事、搬送工事等の設計施工業務、そして情報機器（汎用券売機、入退場システム等）の製造・販売・サービス業務の3部門にて主要事業を展開しております。



### S & S エンジニアリング

病院内搬送をメインに、移載・収納・保管を含むトータルな搬送システムの導入計画立案から設計、施工、メンテナンスまで一貫した取組で、最適な搬送ソリューションを提供しています。

上記2社の他、保険代理業や運送業などを手掛けるシンフォニア商事、労働者派遣業や当社グループ内の経理・給与業務を請け負うセルテクノ、ソフトウェア開発やOA機器の販売を行うアイ・シー・エスにより構成されています。

## 半導体製造事業への取組

当社クリーン搬送機器事業では、半導体製造装置用ロードポート、ウェーハ搬送設備及び真空搬送システム (EFEM) 等を製造、販売しております。

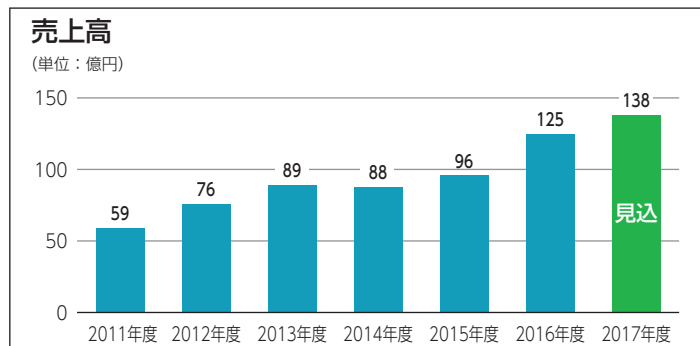
売上高は2011年度59億円、2012年度76億円、2013年度89億円、2014年度88億円、2015年度96億円、2016年度125億円となりました。そして本年2017年度は138億円を見込んでおり、着実に成長してきております。

半導体製造装置用設備においては、パーティクル（微細な塵）の抑制、ロボット振動抑制制御、気流コントロール等の半導体ウェーハ搬送のための技術的なノウハウが必要であり、当社は長年にわたる開発を通して、このノウハウを独自に蓄積してまいりました。製造現場においても、パーティクルの付着を最小限に抑えるために設備を増強し、品質安定を第一に生産を行っております。

その結果、現在では世界の半導体製造装置メーカー大手10社の内、8社に対して製品の納入を行っており、主力製品であるロードポートにおいては世界シェアNo.1の地位を築いております。その8社の内5社は海外の顧客であり、海外売上高比率は約50%です。また、グループ会社であるシンフォニアエンジニアリング(株)では、半導体メーカーが台湾、中国に展開する半導体製造工場内で半導体を搬送する設備の設置工事事業を展開しております。

半導体業界は、タブレットPCやスマートフォンに牽引され好調を維持しつつ、今後はAI（人工知能）、IoT用クラウド・サーバ、自動車自動運転機能、VR（仮想現実）等の新たな技術の発展や中国政府主導の大規模な投資計画により、市場の拡大が期待されます。

このようなビジネスチャンスをとらえ、当社グループの主力事業として、売上高及び利益をさらに向上させるべく、当社も着々と増産準備を進めており、今後も様々な施策を実施してまいります。



EFEM



ロードポート

## 不要細胞除去装置の販売に向けて

当社は、医療分野への参入に向けて特殊な画像解析技術を開発し、ES/iPS細胞の培養の過程で目的以外の細胞に変化した部分（不要細胞）を画像にて識別し、非接触で近赤外線レーザーを照射することにより自動的に細胞を除去する不要細胞除去装置の商品化を進めております。細胞画像のサンプルを多数収集し、アルゴリズムの改良等を重ね、不要細胞の識別率向上と処理時間の短縮を実現して実用レベルの除去技術を完成させました。近畿大学殿及び京都大学殿で評価を行うとともに、本年3月の日本再生医療学会や6月の国際幹細胞学会に実機を参考出展し、良好な評価が得られております。現在、量産化準備もほぼ完了し、「セルフオリア（商標登録出願中）」という商品名で今年度中に販売を開始する予定です。

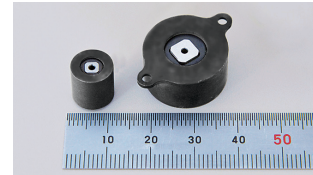


不要細胞除去装置

## 超小形電磁ブレーキの開発

ロボットアームの複雑化・高性能化が進む中、これらに使用されるモータの小形化が進んでおり、それに伴い小形電磁ブレーキに対する需要も増加しています。医療分野においてもその需要は増えてきており、当社は従来の小形電磁ブレーキのさらなる小形化・薄型化ニーズに応えるべく、巻線部の薄膜絶縁を用い、ねじを使わない構造とした超小形電磁ブレーキを開発いたしました。

今後量産化のための開発を進め、2018年度より販売開始予定としております。小形ロボットなどの好調な業界のほか、医療機器、遊戯機器など幅広い用途に向けて販売してまいります。



超小形電磁ブレーキ（左）と従来品

## 業界初、エア流量デジタル制御機器「圧電バルブシステム DIGIVAL」を販売開始

近年では、スマートフォンなど極小部品が搭載される機器が急増し、製造工程ではこれらを高速で整列供給するパーツフィーダのニーズが高まっております。当社では、極小部品をより高速かつ安定して整列供給するために、部品の向きを揃えるエアの流量をデジタル制御できるバルブシステムの開発を進め、新形「圧電バルブシステム DIGIVAL」を製品化しました。



圧電バルブシステム  
DIGIVAL

本製品は、従来比10倍の高速応答、業界最高レベルの連続10億回以上の高耐久性を達成し、さらに省スペース化、IoT対応などエア機器業界で革新を起こす画期的な性能を備えております。

また、本製品はパーツフィーダが組み込まれる各種生産装置（テーピング機、外観検査装置）向けだけでなく、その用途は高速マウンターをはじめ多種多様な業界に渡り、産業界の省力化、高速化に広く貢献できることを期待しております。本年4月より販売を開始しており、2020年度には目標台数2万台、目標売上高20億円を計画しております。

## 連結貸借対照表 (平成29年9月30日現在)

(単位：百万円)

<b>資産の部</b>		<b>負債の部</b>	
<b>流動資産</b>	<b>52,765</b>	<b>流動負債</b>	<b>42,486</b>
現金及び預金	6,419	支払手形及び買掛金	16,360
受取手形及び売掛金	27,757	短期借入金	15,454
商品及び製品	1,242	未払法人税等	385
仕掛品	9,392	受注損失引当金	415
原材料及び貯蔵品	5,747	その他	9,871
その他	2,235	<b>固定負債</b>	<b>17,820</b>
貸倒引当金	△29	長期借入金	10,284
<b>固定資産</b>	<b>44,080</b>	役員退職慰労引当金	82
有形固定資産	29,821	環境対策引当金	363
建物及び構築物(純額)	10,745	退職給付に係る負債	3,808
土地	14,561	その他	3,280
その他(純額)	4,514	<b>負債合計</b>	<b>60,307</b>
無形固定資産	1,999	<b>純資産の部</b>	
投資その他の資産	12,259	<b>株主資本</b>	<b>28,427</b>
投資有価証券	10,228	資本金	10,156
その他	2,079	資本剰余金	452
貸倒引当金	△47	利益剰余金	17,885
<b>資産合計</b>	<b>96,845</b>	自己株式	△67
		<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>8,110</b>
		その他有価証券評価差額金	4,568
		繰延ヘッジ損益	△0
		土地再評価差額金	3,913
		為替換算調整勘定	176
		退職給付に係る調整累計額	△547
		<b>純資産合計</b>	<b>36,537</b>
		<b>負債純資産合計</b>	<b>96,845</b>



## 連結損益計算書 (平成29年4月 1日より 平成29年9月30日まで)

(単位：百万円)

売上高	38,845
売上原価	30,539
売上総利益	8,305
販売費及び一般管理費	6,997
営業利益	1,307
営業外収益	170
受取利息及び配当金	127
その他	42
営業外費用	172
支払利息	99
その他	72
経常利益	1,305
税金等調整前四半期純利益	1,305
法人税等	296
四半期純利益	1,009
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,009

## 連結キャッシュ・フロー計算書 (平成29年4月 1日より 平成29年9月30日まで)

(単位：百万円)

営業活動によるキャッシュ・フロー	3,140
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,597
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,192
現金及び現金同等物に係る換算差額	6
現金及び現金同等物の増減額	△642
現金及び現金同等物の期首残高	7,062
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,419

▶ 財務情報の詳細は、  
当社ホームページIRサイトをご覧ください。

The image shows a screenshot of the SINFONIA IR website. A red circle highlights a button labeled 'Click!' with a red arrow pointing to it. The website header includes the SINFONIA logo and navigation links like 'IR情報' and 'Global Network'. The main content area features a large image of a tree and the text '株主・投資家の皆様へ'. Below this, there are sections for 'IR情報' and 'IR情報' with various links and dates.

<http://www.sinfo-t.jp>

シンフォニアテクノロジー

検索

### 会社概要

会社名	シンフォニアテクノロジー株式会社
設立	1949年8月(昭和24年)
創業	1917年5月(大正6年)
資本金	101億5,696万円
従業員	3,702名(連結)
本社所在地	〒105-8564 東京都港区芝大門1-1-30 芝NBFタワー

### 株式の状況

発行可能株式総数	580,000,000株
発行済株式の総数	148,679,622株(自己株式265,989株を除く)
株主数	13,052名
大株主(上位10名)	

株主名	持株数 千株	出資比率 %
日本マスタートラスト信託銀行(株) 退職給付信託口(株神戸製鋼所)	14,898	10.02
ダイキン工業(株)	5,085	3.42
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/FIM/ LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS	4,100	2.76
シンフォニアテクノロジーグループ 従業員持株会	4,052	2.73
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口)	3,932	2.64
シンフォニアテクノロジー取引先持株会	3,703	2.49
大日本印刷(株)	3,664	2.46
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	3,374	2.27
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140040	2,652	1.78
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口5)	2,445	1.64

(注) 1. 日本マスタートラスト信託銀行(株)退職給付信託口(株神戸製鋼所)の持株数14,898千株は(株神戸製鋼所)から同信託銀行へ信託設定された信託財産です。信託約款上、当該株式の議決権の行使についての指図権限は(株神戸製鋼所)が保有しております。

2. 出資比率は自己株式(265,989株)を控除して計算しております。

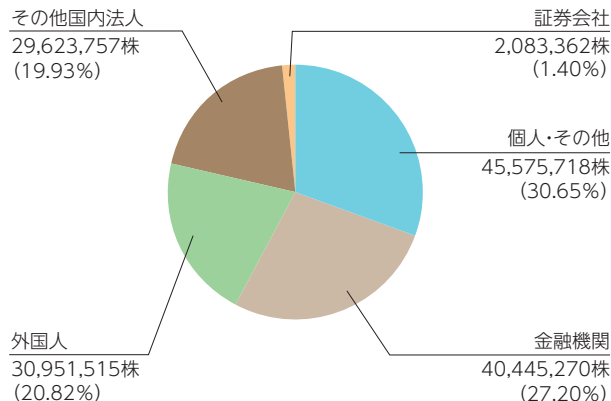
### 主要な営業所及び工場

支社	大阪、名古屋
支店	九州(福岡)
営業所	東北(仙台)、新潟、北陸(富山)、静岡、三重(伊勢)、中国(広島)
工場	伊勢製作所(伊勢、鳥羽)、豊橋製作所

### 主要な子会社の本社所在地

シンフォニア商事(株)(伊勢)  
 (株)S&Sエンジニアリング(東京)  
 シンフォニアエンジニアリング(株)(伊勢、東京)  
 シンフォニアマイクロテック(株)(明石)  
 (株)セルテクノ(伊勢)  
 (株)大崎電業社(東京)  
 (株)アイ・シー・エス(伊勢)  
 シンフォニアテクノロジー(タイ)(株)(タイ王国・サムットプラカーン)  
 昕芙旋雅商貿(上海)有限公司(中華人民共和国・上海)  
 昕芙旋雅機電(香港)有限公司(中華人民共和国・香港)  
 シンフォニアマイクロテック(ベトナム)(株)(ベトナム社会主義共和国・ハナム)  
 昕芙旋雅機電(東莞)有限公司(中華人民共和国・東莞)

### 所有者別株式分布状況



## 役員

### 取締役及び監査役

代表取締役会長	武藤昌三
代表取締役社長	古谷浩三
取締役	齊藤文則
取締役	常光茂久
取締役	高橋芳明
取締役	川久伸司
取締役	仲野新一
社外取締役(非常勤)	井上修平
社外取締役(非常勤)	重河和夫
監査役(常勤)	百家俊次
社外監査役(常勤)	笹川浩史
社外監査役(非常勤)	下谷政弘
社外監査役(非常勤)	下谷收

### 執行役員

※専務執行役員	齊藤文則
※常務執行役員	常光茂久
※常務執行役員	高橋芳明
※常務執行役員	川久伸司
※常務執行役員	仲野新一
執行役員	河村博一年
執行役員	堀村恭至
執行役員	瀨田学
執行役員	永井博幸
執行役員	成久雅章
執行役員	花木敦司
執行役員	中田哲二

- (注) 1. 当社は、井上修平、重河和夫、笹川浩史、下谷政弘、下谷 收の5氏を(株)東京証券取引所の定めに基づく独立役員として同取引所に届け出ております。  
2. 上記※印の者は、取締役を兼務しております。

## 単元未満株式(1株~999株)買増及び買取請求のご案内

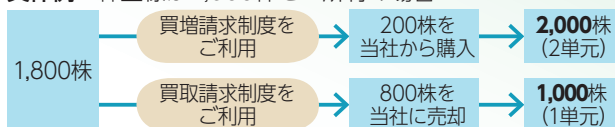
当社株式の証券市場での取引は1,000株単位となっておりますため、単元未満株式を市場で売買することはできません。

当社では、「単元未満株式買増請求制度」または「単元未満株式買取請求制度」のいずれかの制度を選択してご利用いただけますので、ご案内申し上げます。

**買増請求制度** 株主様がご所有の単元未満株式と合わせて単元株式(1,000株)となるように、市場価格で当社から購入することを請求できる制度です。

**買取請求制度** 株主様がご所有の単元未満株式を、市場価格で当社に売却することを請求できる制度です。

**具体例** 株主様が1,800株をご所有の場合



## 単元未満株式の買増・買取、住所変更等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座にて管理されている株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

## 特別口座から一般口座への振替えについて

株券電子化に際して、証券会社等に株券を預けられていなかった株主様の株式は、三井住友信託銀行株式会社の特別口座に記録されています。特別口座に記録されている株式につきましては、株主様が保有株式の管理を簡便にするため、証券会社等の口座(一般口座)に振替えいただくことをお勧めいたします。

ご所有の株式が特別口座に記録されているかご不明の場合や、一般口座への振替えのお手続につきましては、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお問い合わせください。

## 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月

基準日 定時株主総会 3月31日  
期末配当金 3月31日  
中間配当金 9月30日  
(その他必要あるときは予め公告します。)

上場取引所 東京証券取引所 市場第一部

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

特別口座の 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(電話照会先) TEL 0120 (782) 031 (フリーダイヤル)



## シンフォニア テクノロジー 株式会社

〒105-8564 東京都港区芝大門1-1-30 芝NBFタワー  
TEL 03 (5473) 1800  
<http://www.sinfo-t.jp>

**UD FONT**  
見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

